

学校法人 天周学園 若草幼稚園

評価についての方針

Assessment Policy

2020年1月



若草幼稚園

限りない学び、可能性、夢への出発点

私たちの使命

自己の生存や成長があらゆる他者とのつながりによって
成り立っていること（縁起）を理解し、
異なる他者に感謝と敬意の心をもって互いに学びあいます。

～私たちが提供する教育～

生徒主体の教育

遊びを通じた探究型学習

心身の調和がとれた生活習慣

コミュニケーション能力の育成

国際感覚の育成

私たちのビジョン

心身の調和がとれた、
生涯にわたって学び続ける人を育てます。

自ら考え課題を解決する自信と、
友達と助け合う喜びに満ち、
世界平和に貢献する人を育てます。

～私たちが大切にしている 5つの価値～

慈悲の心

やりぬく意志

創造する力

挑む力

協力する力

私たちは以上の基本理念と価値観を共有し、その実現のために、文部科学省の定める「幼稚園教育要領」に加え、国際バカロレア機構（IB 機構）の提唱する指導方法を取り入れて教育実践をしていきます。

評価についての方針

若草幼稚園における評価の考え方

1. 評価の対象と目的
2. 評価の方法
 - 2-1) 評価と記録の方法
 - 2-2) 評価のツール
 - 2-3) 情報共有の方法
3. 評価の基準
4. 参考文献

若草幼稚園における評価の考え方

1. 評価の対象と目的

本校では、生徒と教師の双方が参加し、学習の過程と成果の両方を対象に継続的かつ計画的な評価を行います。この評価は、生徒一人一人の発達に応じ、以下の点を明確にしようとするものです。

- ・ 生徒が何に興味を持っているか
- ・ 生徒が何を知り、理解し、習得し、感じているか
- ・ 生徒の発達はどの段階にあるか
- ・ 生徒にはどのような環境設定、指導法が有効か

効果的な評価を行い、それをフィードバックすることによって・・・

生徒は自分の学びに自信を得ます。また、次の段階への道筋を明確にして一層意欲的に取り組むことができ、より深く広範な学習を獲得することができます。

教師はその評価に基づいて学習環境、授業の有効性を振り返り、より思慮深い指導態勢を生徒に提供することができます。

保護者は子どもの発達の証拠を知ることで、進歩に関する理解を深め、喜びを共有し、子どもの学習を支援する機会を得ます。

以上のように、評価は生徒、教師、保護者からなる学校コミュニティー全体を支援し、教育プログラム全体の持続的向上をもたらすものと考え、それらを目的として行います。

2. 評価の方法

基本的に、以下の時系列でそれぞれの意味を持つ評価を行います。

① 形成的評価：学習の過程で定期的かつ高い頻度で行う評価

生徒がすでに何を知っていて、何ができるのかを把握して次のフェーズを計画するための情報を得ます。形成的評価と指導は直接結びついており、意図的に機能し合っています。

また、生徒も自身の学習について振り返る自己評価と、自身または他者による作品を評価し合う生徒間評価に取り組みます。生徒自身が、自分の学びがどのように進んでいるのかを見極め、次に始まる学びに意欲を持ち、自分が何を知りたいのか、何を理解することが目的なのかを明確にすることが出来るようにします。

② 総括的評価：学習の成果に対する評価

指導および学習の最終フェーズで、複数の要素を同時に評価することができます。生徒が何を学び、習得したのかを明確にし、公平かつ包括的に達成の度合いを評価します。

より正確で有効な評価のためには、これらの各段階で、互いに関連性をもつ1) 記録、2) 評価、3) 情報共有の3つの要素が必要であると考えています。その3要素は次項に示す通り、様々な幅広いアプローチによって実行されます。

2-1) 評価と記録の方法

教師は以下の様々な方法で生徒の学びやパフォーマンスに関する情報を記録し、評価します。可能な限り、生徒の会話・コメント、記述・図画、動画や画像なども用います。

【観察】 教師が定期的または様々なタイミングで生徒を観察します。広い角度（例えば、教室全体）からクローズアップ（例えば、一人の児童または一つの活動）、非参加型観察（外側からの観察）から参加型観察（内部からの観察）というように、教師は焦点の当て方を変えながら観察します。

【パフォーマンス評価】 確立された基準に基づく、目的を持った課題や問題を教師が生徒に与え、生徒がそれをどのように解決するかを見ます。この課題では、問題に対するアプローチ方法がたくさんあり、正解が一つだけである事はほぼありません。

【プロセス重視の評価】 生徒の様子は、頻繁かつ定期的に観察され、複数の観察内容を多面的な見方で分析し統合します。

【一問一答形式テスト】 1度だけ行われる、一面的な課題。テストやクイズという形式が最もよく知られた例です。

【オープンエンド型の課題】 教師の励まし、語りかけなど、何らかの刺激を与えて、生徒の自分ならではの回答を求めます。回答は短い口述、記述、描いた図画や解決方法など様々な形式をとることがあります。

2-2) 評価のツール

教師はプログラムの内容に適した一つ以上の手法を以下から選んで用い、生徒の学びに関して集められた情報を共働的に分析、評価します。可能な場合は、生徒の会話・コメント、記述・図画、動画や画像なども評価の根拠にします。

【ルーブリック（評価指針表）】 生徒の学びを評価するために設定された一連の基準表です。評価の項目ごとに、生徒の取り組みにおいてどのような特性または手がかりに注目すべきか、その取り組みをどのような尺度で評価するかを示します。ルーブリックは教師のみならず、生徒が作成して利用することもあります。

【エグザンプラズ（サンプルとの対比）】 生徒たちの作品の中の見本で、他の見本に対する具体的な判断基準となるものです。

【チェックリスト】 示されるべき情報、データ、学びの達成度を示す特性または要素など、具体的な指標が示されたリストで、達成できたものにはチェックマークを入れていくものです。

【事例記録】 生徒の実際の様子を観察し、それを短い記述で記録したものです。” Learning Story “と呼ぶこれらの記述は、焦点が絞られた、長い期間に及ぶ観察で、のちに分析することも出来ます。連続性の中での熟達度を見ることができ、またその生徒がどの段階にいるのかを見ることが出来ます。

【コンティニウム（評価測定表）】 生徒の学びの発展フェーズを視覚的に表したものです。連続性の中での熟達度を見ることができ、またその生徒がどの段階にいるのかを見ることが出来ます。

2-3) 情報共有の方法

本校では、評価の信頼性と正当性を高めるために教職員間の日常的な情報共有に努めます。また、学校、生徒、保護者が生徒の成長に関する理解を共有できるよう、以下の方法で評価を含めた情報を発信します。

【ポートフォリオ】 ポートフォリオは、学習における生徒の取り組みを記録するもので、生き生きとした生徒の活動を共に祝うものです。学習の過程と成果の両方を含んだ学習の証拠となる情報を収集し保管します。

ポートフォリオによって、生徒は教師や保護者、そして仲間とともに、改善すべき点だけでなく、自身の長所や成長を確認するための振り返りができます。それぞれ個人の目標を設定することにも役立ちます。したがって、ポートフォリオに何を残すかを選択、決定する際には教師のみならず、生徒も参加しなければなりません。生徒が自身の成長について考える機会を与えるためです。

【報告書】 各探求ユニットが終了した時点で学習の過程と成果をまとめ、保護者に報告する書面です。これらは最終的にポートフォリオに保管されます。

【ホームページのブログ】 園のホームページの「園での生活」画面で、クラスごとに担任教師、アシスタント教師および専科教師が園での生活や学習の様子を随時知らせます。

【面談】 面談には以下の形式があります。

- ・教師と生徒・・・形成的評価、自己評価、総括的評価のために面談します。
- ・教師と保護者・・・参観日におけるクラス懇談会および個別懇談会を行います。
- ・生徒主導・・・特に展示会では、生徒が保護者に向けて自分の学習の成果について説明します。

【保護者を迎えた諸行事】 ・参観日 ・運動会 ・展示会 ・発表会 ・謝恩会

【幼稚園幼児指導要録】 小学校への接続を念頭に、卒園時期の生徒個々の様子を記録し、小学校及び法令に基づく第三者機関へその情報を提供し共有します。

3. 評価の基準

評価の一貫性を保つため、以下を基準として用います。

【文部科学省「幼稚園教育要領」】

【若草幼稚園教育理念】

【PYPにおける学習の「基本要素」】

- ・知識の習得 ・概念の理解 ・スキルの習得 ・姿勢の発展
- ・行動を起こす意思決定

【スキル】 ・思考スキル ・コミュニケーションスキル ・リサーチスキル
・社会的スキル ・自己管理スキル

【IBプログラムの基準および実践要綱】

【IBの学習者像】

- ・考える人
- ・探求する人
- ・思いやりのある人
- ・バランスのとれた人
- ・振り返りができる人
- ・知識のある人
- ・信念をもつ人
- ・心を開く人
- ・挑戦する人
- ・コミュニケーションができる人

【IBプログラムの特性】

- ・意欲を喚起し
- ・関係性があり
- ・チャレンジに満ち
- ・意味のある
- ・教科の枠を超えたプログラム

4. 参考文献

本アセスメントポリシーの策定にあたっては以下の学校のそれを一部取り入れています。

- ・サニーサイドインターナショナルスクール 評価方針
- ・町田こぼと幼稚園 評価方針

また以下の文献も参考にしています。

- ・ Making PYP Happen: A curriculum Framework for International Primary Education. Cardiff: International Baccalaureate, Dec. 2009. PDF